

★ アサーティブネストレーナーへの道 ★

vol.5

アサーティブジャパンは、アサーティブネスを広く人々に知っていただく活動の一環として、「アサーティブネスの伝え手（トレーナー）を育成する」という大きなミッションを持っています。これまでアサーティブジャパンのトレーナー養成講座を修了された方々は、北海道から沖縄まで全国各地のそれぞれの現場でアサーティブネスを伝える活動を展開しています。

今回の「トレーナーへの道」では、北海道帯広市在住のトレーナー、徳尾敦子さんの活動をご紹介します。徳尾さんは、まだまだアサーティブネスの認知度が低かった10年ほど前から、帯広の地でコツコツとアサーティブネスの種をまいてきました。どんなことを大事にしながら日々を過ごしてきたのか、そしてどんなご苦労があったのか、アサーティブネスへの思いを語っていただきました。

この土地で、このままの私で、 アサーティブネスを伝えています

看護師・アサーティブジャパントレーナー会員
徳尾敦子さん（北海道帯広市）

私は北海道の帯広で、看護師とアサーティブネストレーナーというふたつの仕事をライフワークとして生きています。

そんな私がはじめてアサーティブネスという言葉を知ったのは、20年以上も前の1986年のことです。ある看護雑誌に「主張的に人とかかわる」というテーマでアサーティブネスが紹介されているのを読み、「アサーティブネス？ 聞いたことのない言葉だなあ」という印象を持ったのが最初の出会いでした。

その約10年後のある日のこと、北海道新聞に載っていた「さわやかに自己表現」という連載コラムに目が留まりました。そのコラムを執筆していたのが、現在アサーティブジャパン代表の「しおむ」（森田汐生）だったのです。

読み進むうちに「アサーティブネスっておもしろそう。こういうことを伝える仕事があるんだ。私もトレーナーになりたい！」という思いがわきあがってきて、早速札幌で基礎講座を受講しました。

北海道内でアサーティブネスを広めたい！

講座はとても楽しくて、グループの中で自分の気持ちを伝えたり、参加メンバーの皆さんに自分の話を聞いてもらえるという体験が新鮮でした。

その後、同じ講座を受けたメンバー内で「北海道でアサーティブネスを伝えていきたいね」という思いが盛り上がり、メンバー有志で「トレーナー養成講座をぜひ札幌で開催してほしい！」というアクションを起こしました。

「お願いだから札幌に来て。養成講座を開いて！」